

医療勤務環境改善マネジメントシステム導入事例（6）

高知県医療勤務環境改善支援センターでは、マネジメントシステムを導入して勤務環境を改善するモデル支援事業を行っており、令和7年度は医療法人白菊会 白菊園病院において実施しました。今号ではその取り組みを紹介します。

タスクシフト・タスクシェアによるチーム医療・多職種連携推進による 職場環境改善への取り組み

●応募動機

看護部門の業務多忙を軽減するためには、病院全体で**看護部門の業務見直し**を行うことが改善の骨格になると考え、業務分析・移管・共有を図れる仕組みの構築・助言を専門家に求めるためにモデル支援への参加を決めた。

●マネジメントシステムによる取組内容

Step1、2 方針表明 体制整備

- ・病院長から全職員に向け「タスク・シフト/シェアを推進し、病院全体の業務改善を図っていく」ことを宣言
- ・病院長をリーダーにしたタスク・シフト/シェア推進チームの発足

Step3 現状分析

- ・現状診断・対策立案シートを作成し、ゴールイメージを共有
- ・アクションプランシートの作成（看護業務を5大項目に分類）
- ・職場満足度アンケートを実施（6項目 41 問）

Step4 目標設定 Step5 計画策定

ミッション（理念）とビジョン（中期的な目標）を策定。続いて、看護業務の5大項目についてアクションプランシートを作成
①看護補助者（技能実習生含む）の活用推進 ②事務業務をシフト ③定期薬管理をシフト
④施設管理業務をシフト ⑤看護業務外の業務の切り分け

Step6 取組の実施

アクションプランシートを活用しタスク・シフト/シェアを実施 上記②から⑤のタスク・シフト/シェアは順調だったが、①の実施が遅れる

Step7 評価・改善

病院長から「**①看護補助者の活用推進**」のための計画を抜本的に見直す必要を示唆される
問題提起

- ・看護師の介護業務領域の多さ、他の職員への教育の不十分さから本来の業務が圧迫されている。
また、業務内容の病棟間での不統一により人事異動後の病棟へのコミットに時間を要する

変更

- ・リハビリ部門が外国人技能実習生を中心に、看護師・看護助手も含めた病棟スタッフ全員を対象として、介護技術・リハビリ視点の患者サポートを座学および実技研修で指導

結果

- ・各病棟での看護師・看護助手の介護技術の向上（ポジショニング含む）
- ・技能実習生の能力向上 ・職種間の連携の円滑化 ・業務時間内研修文化の生成
- ・タスク・シフト/シェアによる看護部門の負担軽減
- ・トップダウンではなく、PDCA サイクルで改善を行う方法の修得

●取組み後の感想（抜粋）

PDCA サイクルを回しながら業務を見直していく方法は大きな学びとなりました。

月に1回アドバイスを受けることでタスク・シフト/シェア推進チームの励みとなりました。

社会保険労務士や医業経営コンサルタントからのアドバイスも無料で受けられます！

高知県医療勤務環境改善支援センター

（事業受託者：一般社団法人 高知医療再生機構）

TEL 088-822-9910

平日 8:30 ~ 17:15 まで

ホームページ <https://www.kochi-mrr.or.jp/kinmukankyoukaizen>

E-mail kinmukankyoukaizen@kochi-mrr.or.jp

勤務環境の
ことならお任せ

